

多賀町町勢要覧

多賀

たが

[2009]

かがやく未来へ



歴史と自然、あたたかい人柄。
一つひとつの宝は輝き、やがて宝庫となる。
すばらしい宝と共生してきた人々は、
まちづくりに情熱を燃やし、
キラリと光る未来を拓きます。

発刊にあたって



多賀町長
久保 久良

今日の少子高齢化や環境問題、高度情報化、男女共同参画など、多賀町をとりまく著しい社会情勢の変化に対応するため、「21世紀に生きる多賀人(たがびと)達」の共通の目標を掲げ、官民協働によるまちづくりを進めなければなりません。これの実現のために、「第4次多賀町総合計画―山蒼く水清く心豊かな多賀のまち―」に基づく諸施策を遂行してきたところであります。

この町勢要覧は、先人諸先輩方や町民皆様により築き上げられた多賀町の姿を映し出したものです。今後はより「一層創意工夫を重ね、「キラリと光る住みよいまちづくり」をめざしてまいります。

平成21年3月

多賀のまちが見えますが、豊かにはぐくまれた自然と文化が、美しく輝きを放ちながら共に生きています。

- 4 | 自然・人・暮らしが輝く住環境
- 6 | 多賀町の自然浪漫
- 10 | 人・まち・暮らしにキラリ 環境活動記
- 12 | 伸びゆくチカラ
- 14 | 次世代への贈り物
- 16 | 多賀大社の伝統行事
- 18 | 時の群像
- 20 | 輝きの舞台
- 22 | 山蒼く水清く心豊かな多賀のまち
- 24 | 健康・福祉
- 26 | 生活環境
- 28 | 教育・文化
- 30 | まちづくり
- 32 | 多賀町イラストマップ
- 34 | 議会・行政
町民憲章

まちの沿革

多賀町は、はるか昔の弥生・古墳時代には村が点在し、人々が暮らしていたことが推測される奥深い歴史をもつまちです。

近世前紀には、織田信長や豊臣秀吉、徳川家康などによる戦乱の舞台となるなど、さまざまな争いが起こりました。

明治維新後の明治32年、町村制の施行により、多賀・久徳・芹谷・脇ヶ畑・大滝の5カ村が発足し、昭和16年に多賀・久徳・芹谷が合併して旧多賀町が成立しました。昭和30年には脇ヶ畑・大滝と合併し、現在の多賀町が誕生したのです。

地勢



湖東地域に位置する多賀町は、東西14.5km、南北17.5km、135.93km²の総面積を誇ります。

1,000m級の鈴鹿山系や芹川・犬上川の清流などの自然に恵まれた環境で、杉、檜、松がはぐくまれ、また穀類や、野菜類の栽培に適しています。



「ひと」と「環境」が主役のライフステージ



自然・人・暮らしが輝く 住環境

多賀町で誕生した大切な生命は、
心あたたかな家族をはじめ、地域住民、また、
自然や文化によつてはぐくまれていきます。
自らが受けた恩恵は次の世代へと受け継がれ、
まちはつるおいます。
住民の心と大切な宝がひとつになつて
魅力あるふるさとが築かれるのです。



多 賀町は、緑濃い鈴鹿山系の山々に抱かれ、美林や芹川、犬上川の清流が広がる自然の宝庫です。また、豊かな自然を守るため、住民の手よつて環境活動がおこなわれ、古代より伝わる遺跡や文化遺産などの保存や展示により、多賀の秘宝を伝えていきます。そして、多賀大社の年間行事をはじめ、伝統行事から近年に始まったものまで、多賀のまちは彩られ、輝く笑顔にあふれます。
これらのように自然と文化が共にある暮らしをめざし、みどりの輝き、文化の輝き、人の輝きが、まちの未来につながるよう、住民が一体となり、魅力のあるまちづくりに励んでいます。



＊輝く住環境

多賀町の 自然 浪漫

鈴鹿山系の雄大な山々が連なり、杉や檜、松などが美林を形成する広大な緑に包まれたまち。そして、芹川と犬上川の悠々とした清流は、琵琶湖へと注がれ、私たちの生活の水源となっています。木々の彩り、野鳥のさえずり、虫たちの鳴き声…。春、ほのかなピンク色に染まった桜には動かしきれぬ、何か新しいことが始めたるなり、夏には緑鮮やかになった里山からエネルギーをもらい、躍動感が見なぎります。秋の紅葉は、変化をもたらしてくれ、雪の白さは冬の厳しさとともに人生の厳しさまでも教えてくれます。多賀町の四季折々の表情は、私たちに日常の変化を気づかせてくれ、感動をもたらしてくれます。

生きとし生ける
すべてのものに輝きを

豊かなる大自然にはぐくまれてきた多賀町の原風景をたどると、そこには、どこか懐かしく、そして新しい力が輝いています。



上. まちのいたるところで咲き誇る、桜の堂々とした姿はまちの人気ものです。中. 紅葉は今か今かと、私たちの心をワクワクさせてくれます。下. 雪化粧された自然は純粹で、まちそのものを映しだしています。



大きく深呼吸をしてください。多賀のおいしい空気が体中に入ってきます。真っ青な空と、深緑の世界は、幸せな気持ちへと私たちを誘います。

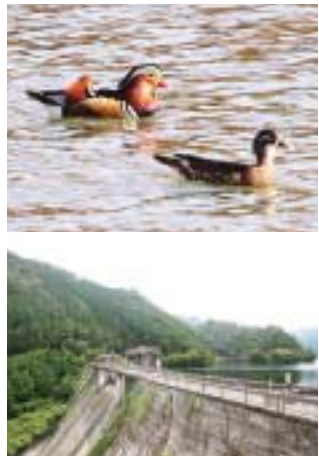
河内の風穴・鍾乳洞内は1544m²と広く、3層構造になっています。洞内温度は年間12℃から13℃に保たれています。



胡宮神社や高源寺などで、紅葉のライトアップがおこなわれています。(写真は胡宮神社)



自然のきらめき
すべてのものに感動を
自然の力と人の営みによって、
生み出された感動の風景の数々は、
内なるパワーを秘めています。



高取山ふれあい公園には、キャンプ場やアスレチック、バーベキュー施設などがあります。大自然とおもいきり遊ぶことで、自然の豊かさを学ぶことができます。また、「たかとりふれあいまつり」では木工教室やアウトドアクッキングなどのイベントがおこなわれています。



多賀町の 自然 浪漫

芹川ダムは、一円地区にある灌漑(かんがい)ダムで、森林地帯は鳥獣保護区に指定されており、ハイキングにも適しています。

環境活動記

豊かな自然が生きている多賀で、ともに生きる人々の活動記には、笑顔があふれ、そして一生懸命な姿が映しだされています。



子どもエコクラブ

幼児を対象に、ゴミ拾いをおこなっています。ゴミが落ちていることを知り、一つずつ分別することによって、環境への関心を高めます。

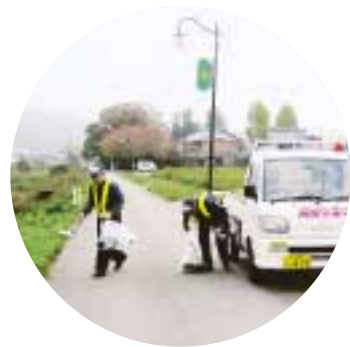


星空かんさつ会

宇宙の星々を観察し、私たちの住む地球のすばらしさを認識して、環境への意識向上につなげます。ダイニックアストロパーク天究館で天体観望をおこなっています。

PTA資源回収

ゴミ問題に対する意識を高めること、ゴミの減量化や資源の再利用を目的に、紙類や繊維類を中心に回収しています。



クリーンパトロール

美しいまち多賀をめざし、多賀町クリーンパトロール隊を設置し不法投棄の防止、不法投棄物の撤去・処理をおこなっています。

美しい多賀町をめざして

今注目されている環境活動には身近にできることがたくさんあります。例えばゴミ拾い。

しかし一人でおこなうのには勇気がいるのではないのでしょうか。そんな住民の皆さんの気持ちに込め、まちではさまざまなゴミ拾い活動がおこなわれています。幼児から高齢者まで、誰でも参加することができ、多賀のまちを美しくしていきます。回収されたゴミは

分別がおこなわれ、ゴミのリサイクルを学ぶことができ、教育活動にも役立っています。

また、環境学習が小学生を中心におこなわれており、山に入り、木々とふれあうことや、星空を観察し、豊かな自然が多賀のまちにあることを学んでいます。そして、実際に米作りなどの農作業をすることで、大地の恵みに感謝する気持ちを育てています。



森林環境学習「やまのこ」

森林への関心を高め、環境の大切さを学んでもらうために小学4年生を対象として、自然観察や木工教室などの体験を中心に活動しています。



田んぼのこ体験事業

野菜やそば、米作りなどの体験をとおして、農業や作物づくりの大切さを学んでいます。収穫した作物は、学校給食などでおいしくいただきます。



環境基本条例策定委員会

地球環境の保全について基本理念を定めるために、住民の方を中心に意見を交わしています。わかりやすく、想いをのせた条例づくりをめざしています。

★輝く住環境

伸びゆくチカラ

多くの企業が主力生産拠点として操業している多賀町の工業団地。未来に向け、無限大のエネルギーがみなぎっています。

びわ湖東部中核工業団地

総面積：57ha（工業用地40ha）
企業数：1社（麒麟麦酒株式会社）
昭和48年7月25日 竣工
昭和49年1月30日 第一工場稼働開始
昭和49年4月23日 第二工場稼働開始
昭和49年6月11日 竣工

中川原工業団地

総面積：100ha（工業用地80ha）
企業数：1社（麒麟麦酒株式会社）
昭和48年3月25日 竣工
昭和49年6月11日 竣工

多賀工業団地

総面積：42.6ha（工業用地36.2ha）
企業数：1社（麒麟麦酒株式会社）
昭和48年3月25日 竣工
昭和49年6月11日 竣工

明日を担う産業空間

多

賀町の工業については、工業団地の稼働によって大手企業の立地が進み、湖東地域の活力を生み出しています。地元企業との交流、地元雇用が高められ、地域貢献の分野で大きな成果をもたらしてきました。

とくに、びわ湖東部中核工業団地は、関西、中部、北陸経済圏のちょうど中間に位置しており、名神高速道路や国道、東海道新幹線や東海道本線などの鉄道によって、東京・大阪・名古屋・福井・京都といった主要都市からのアクセスに優れています。多賀町ならではの豊かな自然、好立地といった環境面で優良企業からの注目を集め、各企業の主力生産拠点として、次代に向けた産業空間を形成しています。

多賀町内の工業団地は、びわ湖東部中核工業団地のほかに、多賀工業団地や中川原工業団地など、先端技術や研究開発型企業を中心とした産業の集合体を形成しています。湖東地域の豊かな自然、地域の人々と共存しながら、多賀町の明日を、日本の未来を見据え、発展し続けています。



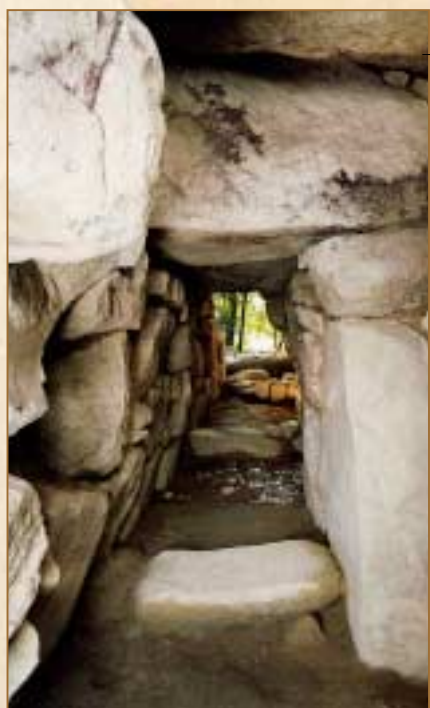
多賀町が生みだした宝とも言うべき、大いなる歴史の一ページ。私たちは過去から現代、そして未来へと受け継ぎます。

★輝く誇り

次世代への贈り物

◆大岡高塚古墳

古墳時代後期、6～7世紀ごろのものとして推定される横穴式石室は、全長11.6mで、奥の壁には高さ2m以上もある巨石が使われています。県下最大級の大きさであり、犬上郡の首長級の墓と言われていいます。また、装飾品や鉄製品、馬具も出土しています。



◆檜崎古墳

6世紀後半から7世紀中ごろに形成されたと考えられており、61基の古墳からは、副葬品や刃装具も出土しています。現在、最大であった1号墳のみが残されており、古墳公園として整備されています。

◆土田遺跡

縄文時代晩期中ごろ（約2,500年前）の墓地で、土器棺墓（どきかんぼ）20基以上などが発見され、その中からは人間の歯や骨片が見つかっています。また、周辺からは土偶や翡翠（ひすい）などの遺物も出土しています。



◆アケボノゾウ

あけぼのパーク
アケボノゾウの全身骨格や、豊かな自然が生みだした動植物の化石などが展示されている博物館。遺跡の発掘や保護をおこなっている文化財センター、図書館、公園からなります。



骨格標本

平成5年に多賀町四手で発見された、約180万年前のアケボノゾウ全身骨格化石の実物が展示されています。アケボノゾウは小型でやや胴長短足、日本で独自に進化して生まれたゾウだと言われています。

受け継ぐべき宝

古 琵琶湖層にたまった粘土から発見されたアケボノゾウの化石は、日本列島と大陸が陸続きであったことを物語り、各地域で発見されている古墳や遺跡は、先人たちに文化があったことを表しています。

はるか昔の記憶は人々によって発掘され、その全貌が明らかになってきました。それらの保存状態がよいのは、豊かな自然によって守られてきたという証なのです。そんな不思議と神祕に満ちた多賀のまちを次世代へと守り、受け継ぐ使命が私たちにあります。



◆ガッターリの里

一方がきね、もう一方が水受けで、獅子おどしの原理を利用した米つき機です。山村の生活文化が復元され、食、水、音の文化を知ることができます。

＊輝く誇り

多賀大社の 伝統行事

多賀大社拝殿

お多賀さんと親しまれる多賀大社。文化と伝統そして人々の思いが込められ、伝統行事は厳かな空気のもとにおこなわれます。多くの参拝者が祈りを捧げる姿は、新たな歴史を生み出します。



節分祭 2月3日

県内外から還暦を迎えた年男女約200名が、赤頭巾に袴姿で、福豆、福餅まきを務めます。また、「鬼の舞」も必見です。



古例大祭 4月22日

地元では「多賀祭り」と呼ばれ、その起源は鎌倉時代とされています。主役である馬頭人(ぼとうにん)が馬上から指揮をします。



御田植祭 6月第1日曜日

早乙女70名が昔ながらの菅笠(すげがさ)、紅タスキの姿で、御神田に田植えを奉納し、一年の豊年満作を祈願します。



万灯祭 8月3～5日

祭神である伊邪那美大神(いざなみのおおかみ)に感謝を捧げ、約12,000灯の提灯のもと、祖先霊の守護を祈念するものです。

伝統と祈りの姿

伊

邪那岐大神と伊邪那美大神が祀られている多賀大社は、延命長寿の厄よけ「縁結び」などの御利益があり、淡路国(近江国)の御社の一つです。

新年の歳旦祭から始まり、古例の御祭や万灯祭など、年間をとおしておこなわれるさまざまな伝統行事では、五穀豊穡や国家国民の安泰が祈られています。奥ゆかしい歴史をもつ伊賀は、多賀の人々によって

「多賀大社」でもお参りすること。多賀大社には、今日も多賀の伝統が受け継がれています。

輝く人のキラリまちづくり 地域に愛される 門前町に



(協)多賀門前町共栄会 理事長 安藤勝利 さん

多賀門前町共栄会は、門前町の活性化や観光客の誘致などを目的に、組合を設立しました。町や商工会だけでなく、住民、交通機関、多賀大社などと連携を取り合い、ワークショップを形成して事業の進展状況の把握や見直しを重ね、積極的に取り組んでいます。活動をとおして感じるのは、事業主の意識が変わってきたことです。みんなが町をよくしよう、活性化させようという意識です。これからは、地域に愛されるまちづくりをしたいと思います。 「組合員、住民、町が元気になる」そんな仕掛けをしていきたいですね。



時の群像

文化財に刻まれた先人たちの足跡には、先人たちの歴史が息つき、大切にされてきた人々の想いが刻まれています。

悠久のロマン

山 や川の自然と向き合って暮らしてきた多賀の人々は、

自然に対する畏敬の念を常に忘れませんでした。その想いを伝えるのが町内に残る寺社であり、仏像や障壁画などの文化財が数多く残されています。

神仏分離により、多賀大社から真如寺に移された、木造阿弥陀如来坐像や、坐像や、兵火により、廃寺となりましたが、復興した胡宮神社など、その一つひとつには歴史が刻み込まれています。

当時の様子を物語ってくれる貴重な文化財は、幾世代にもわたって大切に守り伝えられてきた、郷土のかけがえのない宝です。



大滝神社本殿

県指定文化財

多賀大社の末社であり、奥の院「滝の宮」とも呼ばれています。本殿は徳川家光公の命令によって造営されたもので、正面の扉、社額に徳川家の三つ葉葵（あおい）の紋が彫り込まれています。



多賀大社奥書院障壁画

町指定文化財

寛政11(1799)年、仏像の建築から書院建築に改装する時に、床の間や違い棚などが改変、設置され、描かれたものと考えられています。



多賀大社奥書院庭園

国指定文化財

豊臣秀吉が母の病氣平癒を祈り、そのお礼として築造したと伝えられています。池泉鑑賞式庭園で書院から見下ろすめづらしい形式です。



資本淡彩妙寿尼(村山たか女)像

町指定文化財

井伊直弼を助けた村山たか女は、多賀大社般若院にゆかりがあったとされ、近年、般若院の書院が移築されている高源寺でこの肖像画が発見されています。



木造阿弥陀如来坐像

国指定重要文化財

行基(ぎょうぎ)が彫り、なで肩でやわらかな曲線をもつ、藤原時代の仏像です。明治時代初期の神仏分離により、多賀大社から真如寺に移されました。



胡宮神社本殿

県指定文化財

青龍山(せいりゅうざん)の巨石信仰が起源と言われています。戦国時代の兵火により、廃寺となりましたが、寛永の大造営により復興しました。



紙本金地著色調馬・厩馬図六局屏風

国指定重要文化財

桃山時代のもので、狩野派正統の絵師による作品と考えられています。厩(うまや)を半双に、武家屋敷の庭先での調馬が半双に描かれています。



胡宮神社社務所庭園

国指定文化財

観賞式林泉園(りんせんえん)で、書院から眺めるように作られています。前方の池泉と後方の築山の調和が美しく、清楚で落ち着きのある庭です。

敏満寺石仏谷墓跡

国指定文化財

敏満寺の堂舎が存在していたといわれる位置にあります。中世の墓地群で、墓は数種類の構造があり、蔵骨器や供献土器も出土しています。



銅製五輪塔 附 紙本墨書寄進状 1巻

国指定重要文化財

鎌倉時代前期、重源(ちゅうげん)の銘があります。延命祈願をして願いが叶い、寄進をしたものと伝えられています。



多賀の大木



◆飯盛木

男木と女木といわれるケヤキの大木です。この木で作った杓子で天皇に食事を捧げると病気が治ったことからこの名がつけました。



◆向之倉のカツラ

井戸神社の御神木。県下最大の巨木で、主幹から大小12本の幹に分かれています。



◆多賀大社御神木

伊弉諾大神(いざなぎのおおかみ)が地面に刺した箸が、成長したという言い伝えがあります。



◆十二相神社の杉

滋賀の名木誌に記載されており、樹高41.0m、樹幹周囲6.5mにもなります。

◆胡宮神社古例祭

ご奉齋、神輿、舞楽揃っての渡御は華やかであり、昔の一行は多賀大社まで渡御を組んでいましたが、今は略式となっています。



◆たかとりふれあいまつり

パノラマハイキングや、ふれあいパーティー、アウトドアクッキングなどがおこなわれています。多賀の自然と人々の交流の場となっています。



輝 き の 舞 台

＊輝く誇り

まちを華やかに彩り、
いつの時代も人々の心を惹きつける
さまざまな祭りやイベントが
多賀の一年には織り込まれています。

◆多賀ふるさと楽市

多賀大社前駅から門前町絵馬通りを会場に開催されます。特設会場でのコンサートや、各ゾーンでのイベントなど、たくさんの人でにぎわいます。



◆クリスマスイルミネーション

地域振興団体SKOや地元小学生によるもので、滝の宮スポーツ公園横の雑木林に色とりどりのオブジェが、冬の夜空のもと幻想的に明かりを灯します。

心わきたつ舞台

まわりを見回すと、多賀町には、
は、いにしえより人々が受け継いできた祭りや行事がしっかりと息づいています。一方で、町民のふれあいと活気を生み出すたくさんのイベントやレクリエーションが繰り広げられています。一時は衰退していた、かんこ踊りや近江猿楽は、その伝統を守ろうと、人々の力によって復興されました。また、たかとりふれあいまつりなど、新しくできた祭りも多くあります。
多賀町の祭りは、人々の心をつながげ、町全体を情熱で包み込む、未来へと残すべき大切な無形遺産です。



◆かんこ踊り

本来の目的は雨乞いでしたが、お礼おどりもおこなわれていたことから、村人の娯楽でもありました。大君ヶ畑地区で保存活動がおこなわれています。

◆近江猿楽多賀座

能や狂言に影響を与えた猿楽の復興のため、近江猿楽の発祥の地である多賀町で結成されました。音楽や踊りは創作し、衣装や道具なども手づくりのものを使っています。

◆大滝神社古例祭

毎年交代で、大滝地区の氏子(うじこ)が御神輿(おみこし)を順番に御旅所まで練り歩く祭事です。男女2基の子供神輿も奉納されます。





健康・福祉

ぬくもりや、やさしさあふれるまち

まちづくり

だれもがいきいきと活躍できるまち

★輝く未来



山蒼く水清く心豊かな多賀のまち

手と手、心と心をつないで、町民みんなで未来へと進む。
夢と希望にあふれる多賀町をつくるために、今できること。

生活環境

安心、安全で安らげる快適なまち

教育・文化

郷土に誇りをもち、豊かな心をはぐくむまち



健康・福祉

Health & Welfare

↓子育て支援

子育て支援センターや保育園を開放しています。子どもや親同士がふれあえる場は、情報交換ができ、子育てに役立ちます。

→介護老人福祉施設

自宅での療養が困難になり、入所する要介護者が、ケアプランに基づいた介護や機能訓練、療養などのサービスを受けることができる施設です。



→介護福祉活動

介護予防教室では、機能低下の予防をおこない、活動的な生活を維持できるようめざしています。

←やまびこクラブ

総合型地域スポーツクラブで、複数の種目があり、年齢やレベル、関心などに応じて楽しむことができます。健康増進とともに、元気なまちづくりをめざしています。



→学童保育

放課後、家庭に保護者のいない小学生が利用しています。遊び、勉強を通じた異年齢児間のふれあいの場所です。

←杉の子作業所

町内外の企業に出向いたり、作業所内での請け負い作業や交流をおこなっています。さまざまな体験をすることによって、自立と社会参加をうながし、地域で暮らせることを目標にしています。



↑総合福祉センター

ふれあいの郷は、すべての人に保健福祉サービスを提供する施設です。町民の健康や暮らしを守る施設として開いており、交流の場として浴室も併設しています。

→健診・予防接種

4カ月児健診など、赤ちゃんの健診や、整形外科健診をおこなっています。また、疾病に対しての免疫効果を高め、健康で元気に育つよう、BCGなどの予防接種をおこなっています。



Health & Welfare

ぬくもりや、やさしさあふれるまち

健康・福祉 行政施策 ①

子どもや高齢者、障がい者の方をはじめ、すべての人が健康で生きがいをもち安心して暮らせるよう、また良質なサービスを提供できるよう保健、医療、福祉の関係者が連携し、人にやさしいまちづくりをおこなっています。

一つには、いつまでも健康で充実した生活を送るために、定期健診や健康診断またスポーツを通じた健康づくりの機会や場の提供などを展開し、地域医療体制の充実と合わせ、安心感へとつなげています。二つには、高齢者の方がシルバー人材センターと積極的に関わりをもち、社会活動への参加を促進することや、障がい者の方が共同作業所で活動をおこなうため施設の充実を図っています。

また、子育て支援に関しては、「子育て支援センター」を設置し、子どもや保護者同士の交流の機会をつくり、子育て不安の解消に努めています。

このように、町民一人ひとりが地域に関心をもち、地域活動に積極的に参加して、相互の助け合いとふれあいを大切にし、地域ケア体制の活動を支援しています。



生活環境

Environment

↓太田川のホタル観察会

太田川の清流に生息するホタルを、自然と文化の館の学芸員を講師に招き、観察します。暗やみの中、ホタルの光は幻想的な雰囲気を醸し出します。

→ごみゼロ活動

平成20年度は、489人が清掃活動に参加し、ゴミ袋270袋、960Kgのゴミを回収しました。空き缶やペットボトルが大半で、ポイ捨てによるものと思われま



→多賀町水道基本構想

上水道施設の新設・更新を中心としたライフライン整備をおこなっています。

←多賀町農業集落排水事業

平成14年度から事業が開始され、佐目・萱原の処理場が完成し、稼働を始めました。50年後も安心して飲める琵琶湖の水をめざしています。



→水源の森づくり

水源の森は、琵琶湖や私たちの暮らしにとって欠かせません。県民協働で守り育てていくために、森林の現状を知り、樹木に関わる機会を提供しています。



Environment

安心、安全で安らげる快適なまち



↑バイオディーゼル燃料を使用したバス

地域のゴミをリサイクルする循環型社会のモデルとして、回収された廃食油（てんぷら油）から精製するバイオディーゼル燃料を、9台の公用車で使用しています。

←緑のダムづくり

河川事業の一環として整備された河川敷を、関係集落の協力のもと、草刈作業を実施し、景観整備を実施しています。

行政施策② 生活環境

誰もが安心して日常生活を送れるよう、安心、安全なまちづくりに取り組んでいます。

歩道の設置、バリアフリー化や、除雪対策などの整備、管理をおこない、人や環境にやさしい道路づくりを進めています。

安全で安心して飲める水を供給するためにも、施設の更新を図り、生活排水100%を目標に事業を推進しています。

防災対策では、「多賀町地域防災計画」にもとづき、自主防災組織などの育成や災害弱者への配慮、予防対策や対応マニュアルなどを整備しています。また、避難場所や防災倉庫の施設を総合的に推進しているほか、町民の意識の高揚と、地域での防犯自治会組織の充実を図っています。

そして、多賀町の人口増加をめざし、団地の宅地開発を推進することや、都市公園整備をおこない、ゆとりのある住宅環境の整備を進めています。



教育・文化

Education & Culture

→青少年育成町民会議

青少年健全育成のために、昭和44年より、着実に活動されてきました。「大人が変われば子どもも変わる」のスローガンのもと、活動しています。



→人権啓発事業

あらゆる差別や人権侵害をなくし、人権を尊ぶまちづくりを実現するため、平成9年3月に「多賀町人権擁護に関する条例」を制定し、実現のために町民のつどいを開催しています。



←子ども陶芸フェスタ

中央公民館でおこなわれている陶芸教室のプレイベントとして開催されました。笛と鈴を作成し、オリジナルでカラフルに仕上げました。



→食育の推進

学校給食に地場産物を活用することで、子どもたちが食材を通して、自然や文化、産業等に対する理解を深め、郷土への愛着、感謝の心をはぐくみます。

←ふれあい幼稚園

「身近な人や自然、地域とふれあい、関わる中で生活や遊びの場を広げる」を重点目標に、子どもの成長を促し、悩みを話し合う交流の場として開園しています。



↑幼稚園と小学校との交流会

子どもは、幼稚園から小学校に入学するとき、「新しい環境」に対する喜びや期待とともに、不安や緊張感を抱くことがあります。そこで、こうした子どもの姿をとらえ、就学前教育と小学校教育との滑らかな接続を図るため、様々な取り組みを行っています。

→海外でのホームステイ

国際化に対応できるコミュニケーション能力を育成するため、青少年を海外へ派遣しています。

Education & Culture

郷土に誇りを持ち、豊かな心をはぐくむまち

次代を担う子どもたちが、健やかに個性と創造性を伸ばしていきけるよう、家庭や地域とともに教育環境づくりに努めています。具体的には、幼稚園振興計画により、預かり保育の実施や、3歳児教育の機会均等など、幼稚園の整備や運用の弾力化に努めています。また、子育て支援センターを設立し、幼児教育のシステム化を図っています。学校教育では、命や人権を大切にすることを推進するとともに、自然や歴史、文化にふれる体験学習を進めています。また、学校が居心地のよい場所となるよう、相談機能の充実や、教員の向上に努めています。地域においては、青少年を取り巻く組織が十分に機能するように努め、体験活動の場や機会の充実を図り、中高生の地域事業への参画を推進しています。博物館では、多賀に残された貴重な文化財などの保全や展示に努め、文化芸術活動を促進しています。

行政施策 ③

教育・文化



まちづくり

Community development

↓都市公園の整備

平成8年度に四手公園、平成10年度に多賀公園を近隣公園として整備し、周辺住民等の憩いの場として利用しています。

→消防・防犯活動

多賀のまちを火災や犯罪の被害から、自分たちの手で守るために、住民団体や地域の人たちが一丸となり、訓練や、パトロールをおこなっています。



→美林づくり

まちの大部分を占める山林では、杉、檜、松などが美林を形成しています。その美林を守り、後世に伝えるべく、間伐講習がおこなわれています。



←稲作

古くから稲作中心の農業が営まれてきました。豊作を祈る祭りもあり、歴史を物語っています。また、小学生などが体験とおとして、主食である米の大切さを学んでいます。



→地産地消

地域で収穫したものを、新鮮なうちに、その地域で消費してもらうためのものです。きまぐれ市では、野菜、米、花、漬け物を販売しています。

←工業団地

関西、中部、北陸経済圏の中間に位置しています。名神高速道路や鉄道により、主要都市間の中心として、また生産の拠点として多くの企業から成り立っています。



↑社会を明るくする運動

犯罪の防止と罪を犯した人たちの更正について、理解を深めるための全国的な運動で、多賀町ではパレードをおこない、啓発ティッシュを配布しています。

→観光ボランティア

多賀の文化や歴史など、すみずみまで知り尽くし、風土愛とボランティア精神をもった方々が、多賀大社をはじめとする名所を案内してくれまます。

Community development

だれもがいきいきと活躍できるまち

協働によるまちづくりを進めるため、町民参画の機会を充実させ、町民、町民活動団体、企業、行政のパートナーシップづくりに努めています。

とくに、人権を基軸にしたまちづくりを進めており、女性や障がい者、在住外国人、高齢者などへの差別を解消し、地域活動へ参加できるよう、啓発活動などを実施し、心豊かで住みよい施策を推進しています。そして、企業と通じて、差別のない職場づくりへの指導、助言をおこなひ、雇用の安定を図っています。

産業面として、農林業では、環境保全や景観形成などの機能を重視した、公益的機能の開発をおこない、新たな特産品開発に取り組んでいます。また商工業では、住民のニーズに応え、地元との連携をする中で、地域貢献をおこなっています。

住民と行政との信頼関係については、「広報たが」などの充実を図り、開かれた議会をめざしています。また、広域行政の取り組みについて議論を深め、可能性についても検討しています。

まちづくり

行政施策 4



多賀町 イラストマップ

広大な美林、清流、文化遺産など、見どころまんさいの多賀町。
まちの笑顔と魅力、文化を探す旅に、地図を片手に出かけてみませんか。

凡例			
	国道		施設・見どころ
	一般道		神社
	高速道路		寺院
	JR線		駅
	新幹線		
	近江鉄道線		

Taga Town Illustration map

多賀町民憲章

鈴鹿山系の緑と芹川・犬上川の清流に恵まれた多賀町に住む
わたくしたちは、日常生活の心構えとしてこの憲章を定めます。

わたくしたち多賀町民は

- 一、郷土に住む喜びを感謝し、
平和で明るい町をつくります。
- 一、歴史と伝統を生かし、教養を深め、
かおり高い文化の町をつくります。
- 一、互いに励まし助けあい、
心のふれあう町をつくります。
- 一、清くたくましい青少年のそだつ、
健全な町をつくります。
- 一、働くことに喜びをもち、
しあわせな家庭、豊かな町をつくります。

昭和53年11月10日制定



町の花
ササユリ



町の木
スギ



町の鳥
ウグイス



議会(議員側)

議会・行政

にぎわい集いみんなが主役の 多賀町のまちづくり

町民の想いをまちづくりに生かしていくため、大きな役割を担っている町議会。
よりよいまちづくりのため、慎重で熱心な話し合いがおこなわれています。



議会(執行側)

予算の決定や条例の制定など、
町民の代表として、まちづくりに
関するさまざまな問題を慎重に
審議し、議決しているのが町議
会です。

議案となった町民の意思を十分
に反映させるよう、12名の議員に
よる年4回の定例会と、必要に応
じて臨時会を開催しています。

議会の内容は、本会議で21名ま
で傍聴することができるほか、議
会だよりによって、知ることがで
きます。



多賀

かがやく未来へ



2009

多賀町町勢要覧

発行:多賀町役場

〒522-0341滋賀県犬上郡多賀町多賀324

TEL.0749-48-8111(代)

編集:株式会社 日本出版
